

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	① 乙 第 号	氏 名	鷺谷佳宣
主 論 文 題 名 : デザイナー組織におけるチームワーク向上メカニズムの解明と改善手法の開発			
(内容の要旨) 本研究は、デザイナー組織におけるチームワーク向上のメカニズムを解明し、それに基づく具体的な改善手法を開発することを目的とする。デザイナー組織では、専門能力の発揮とチームワークの向上が相反するものとして捉えられがちであり、チームパフォーマンスの低下が見られても、「チームワークを高めると創造的な専門能力が阻害される」という懸念から適切な対応が取られないという課題が存在する。また、企業の事務職組織や航空・医療・軍事など様々な領域で発展してきたチームワーク理論は、創造的实践におけるデザイナー組織の相互作用を適切に説明できないという本質的な限界がある。 この課題に対して本研究は、組織行動論研究、デザインマネジメント研究、プロフェッショナル研究という三つの研究領域の交差点に位置づけられる新たな視座を提示した。混合研究法を採用し、質問紙調査によるデザイナー組織と事務職組織の比較分析と、インタビュー調査による実践的知見の深化を通じて、デザイナー組織の複雑な現象を多角的に捉えた。 実証研究の結果、デザイナー組織特有のチームワーク向上メカニズムとして、方針共有を共通基盤とする二重の影響経路が確認された。標準化された業務プロセスを持つ事務職組織では、タスクワーク（個人の業務遂行）とチームワーク（協働活動）が相互に影響を及ぼし合う構造を持つものに対し、デザイナー組織では両者が独立して機能する特徴が明らかになった。具体的には、第一の経路は、リーダーシップとフォロワーシップの発揮がチームワークを介して業績に影響を及ぼす「協働プロセス経路」である。第二の経路は、個人の業務遂行能力（タスクワーク）の発揮がやりがいにより直接影響を与える「創造的自己実現経路」である。この二重構造の発見は、デザイナー組織における創造性と協働性の両立メカニズムを説明する重要な理論的貢献となる。 これらの知見に基づき、三つの具体的な改善手法を開発した。PM 理論に基づくリーダーシップ向上手法では、目標達成機能と集団維持機能の両立を通じて、創造性を尊重しつつ組織的一貫性を確保するアプローチを確立した。批判的・積極的・配慮的行動を促進するフォロワーシップ向上手法では、専門性を発揮しながら建設的な協働を実現する能力開発プログラムを構築した。経営理念浸透研究をパターン・ランゲージで分析した方針共有向上手法では、暗黙知の形式知化と組織的共有を同時に実現する革新的な手法を開発した。さらに、これら三つの手法を統合した「デザイナー組織チームワーク向上統合フレームワーク（DOTEIF）」を提案し、リーダーシップとフォロワーシップの相乗効果、および段階的統合モデルの効果を実証的に確認した。 本研究の成果は、理論と実践の両面で重要な意義を持つ。理論的には、組織行動論の観点から、タスクワーク（創造的業務遂行）とチームワーク（協働と学習）の相互作用という専門職組織特有のメカニズムを理論化し、チームワーク理論を創造的实践の文脈へと拡張した。実践的には、専門職文化と組織的協働のバランスを図る具体的な施策を確立し、デザイナーの役割が「造形者」から「翻訳者」「媒介者」へと変容する中での能力開発の方向性を示した。本研究の独自性は、デザインマネジメント研究において従来の「デザイナーから非デザイナーへのアプローチ」とは			

主 論 文 要 旨

No. 2

逆方向の「非デザイナーからデザイナーへのアプローチ」という知識移転の可能性を実証的に示した点にある。この新たな視座は、創造的専門職組織のマネジメントに関する理論的・実践的発展に寄与するものである。